

住吉区地域福祉ビジョン

Ver.3.0 改訂版

ゆるやかなつながりで、このまちの希望を形に、
一人ひとりがかがやこう



2024（令和~~6~~）年~~6~~月 住吉区役所

住吉区地域福祉ビジョン

Ver.4.0 (素案)

ゆるやかなつながりで、このまちの希望を形に、
一人ひとりがかかがやこう



2027 (令和9) 年5月 住吉区役所

目次

• はじめに	1
• 基本理念	2
• 基本理念の考え方	3
• 基本目標	4
• 住吉区地域福祉ビジョン 構成イメージ図	5
• 基本目標1 ちがいとつながりを力にして、一人ひとりがかがやけるまちづくり	
① 自分と地域を重ねて、しあわせを考えられる住吉区に	6
② 地域のしあわせをいろいろな人と話しあえる住吉区に	7
③ 助け助けられ、お互いさまを実感できる住吉区に	8
④ 地域のしあわせ「今」「これから」がみんなに見える住吉区に	9
• 基本目標2 気になる人をまるごと、支えあい気かけあうしくみづくり	
① すべての人が自分の意見を言える、それが大切にされる住吉区に	10
② たくさんの「気になるなあ」が支援につながる住吉区に	11
③ 「本も見る、森も見る」まるごとを話しあい、支援が進む住吉区に	12
④ それぞれができることから、大きな力を生みだせる住吉区に	13
• 住吉区地域福祉ビジョンの改訂にあたって	14
• 地域福祉をとりまく状況	16
• つながり・みまもり・支えあいシステム図	20
【資料】用語の説明	21



目次

• はじめに
• <u>住吉区地域福祉ビジョンの改訂にあたって</u>
• 基本理念
• 基本理念の考え方
• 基本目標
• 住吉区地域福祉ビジョン 構成イメージ図
• 基本目標1 ちがいとつながりを力にして、一人ひとりがかがやけるまちづくり
• 基本目標2 気になる人をまるごと、支えあい気にかけあうしくみづくり
• 地域福祉をとりまく状況
• つながり・みまもり・支えあいシステム図
【資料】用語の説明



はじめに

「住吉区地域福祉ビジョン」とは、区民の皆さん、地域で活動するさまざまな団体・企業、学校、公的機関などが、住吉区の理想の未来、そしてそれを実現するための理念や目標などを共有するものです。

これまで、住吉区は、基本理念「高齢者・障がい者・こども等誰もが心地よく暮らせるまち」を掲げ、みんなで話しあい、ともに実践していくことで、誰もが自分らしく生きることができ、自分たちが住むまちがこうなってほしいという希望を形にしていく、「増進型の地域福祉*」を推進してきました。

さらに、地域での見守りや支えあいの活動、住みよいまちづくりの取組み、地域・子ども食堂*などの居場所づくり、社会福祉法人による社会貢献活動など、さまざまな取組みがさかんに行われており、大きな強みとなっています。

その一方で、社会構造の変化や**新型コロナウイルス感染症**などにより、人と人、人と地域との「つながり」が弱く**なりました。**また、孤立に苦しむ人が増え、地域のさまざまな活動の「担い手」不足も**課題となっ**
ています。

こうした状況の今こそ、支えあいの力で誰もが自分らしく生き生きと地域の中で暮らすことができる、新しいしあわせ（Wellbeing*）の実現が求められています。それが「地域共生社会*」と呼ばれるものであり、**この取組みの可能性は無限に広がっています。**

そして、皆さんと一緒に希望にあふれた地域づくりに取り組んでいきましょう。



出典：厚生労働省ホームページ

はじめに

「住吉区地域福祉ビジョン」とは、区民の皆さん、地域で活動するさまざまな団体・企業、学校、公的機関などが、住吉区の理想の未来、そしてそれを実現するための理念や目標などを共有するものです。

これまで、住吉区は、基本理念「高齢者・障がい者・こども等誰もが心地よく暮らせるまち」を掲げ、みんなで話しあい、ともに実践していくことで、誰もが自分らしく生きることができ、自分たちが住むまちがこうなってほしいという希望を形にしていく、「増進型の地域福祉*」を推進してきました。

さらに、地域での見守りや支えあいの活動、住みよいまちづくりの取組み、地域・子ども食堂*などの居場所づくり、社会福祉法人による社会貢献活動など、さまざまな取組みがさかんに行われており、大きな強みとなっています。

その一方で、社会構造の変化や個人主義的傾向の強まりなどにより、人と人、人と地域との「つながり」が弱くなっています。また、孤立に苦しむ人が増え、地域のさまざまな活動の現場で「担い手」不足をはじめ数多くの課題が存在しています。

こうした状況の今こそ、支えあいの力で誰もが自分らしく生き生きと地域の中で暮らすことができる、新しいしあわせ（Wellbeing*）の実現が求められています。それが「地域共生社会*」と呼ばれるものであり、対面でのつながりを大切にしながらも、これからはSNSやAIの活用など、新しい手段も取り入れることで、新たなつながりのかたちが広がる可能性もあります。

希望にあふれた地域づくりを一緒にめざしていきましょう。



出典：厚生労働省ホームページ

住吉区地域福祉ビジョンの改訂にあたって

(1) 改訂の背景と経過

住吉区では、「地域見守り支援システム」という、支援の必要な人々への日常的な見守りを地域の人々みずからが行う取組みを進めてきました。

そして、このまちのために働き暮らす多様な人々が集まって、各地域で「地域座談会」を開催し、「このまちをこんなまちにしたい」という思いを語りあい、形にする取組みも進めてきました。

さらに、住吉区では、多様な主体によって、高齢者食事サービス*やふれあい喫茶、子育てサロン*、地域・子ども食堂など居場所づくり、まちづくりワークショップ、地域フェスタなどのイベント、地域講演会、防災の取組みなど、さまざまな居場所づくりやつながりづくり、地域力を高めるための取組みが盛んに行われてきています。

~~新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域における福祉活動や生活困窮者支援等、地域福祉の推進にも影響をおよぼし、人が集い、ふれあい、顔をあわせてつながりを作ることを進めてきた地域福祉活動は大きな制約を受けることになりました。しかし、そのような状況においてもつながりを絶やさないため、新しい形での活動の再開や取組みが始められています。~~

以上、「大阪市地域福祉基本計画」、「住吉区将来ビジョン2028」~~や、地域福祉をとりまく今日的状況や施策課題~~をふまえ、住吉区における地域福祉の取組みをより推進するため、「住吉区地域福祉ビジョン」を改訂します。

住吉区地域福祉ビジョンの改訂にあたって

(1) 改訂の背景と経過

住吉区では、「地域見守り支援システム」という、支援の必要な人々への日常的な見守りを地域の人々みずからが行う取組みを進めてきました。

そして、このまちのために働き暮らす多様な人々が集まって、各地域で「地域座談会」を開催し、「このまちをこんなまちにしたい」という思いを語りあい、形にする取組みも進めてきました。

さらに、住吉区では、多様な主体によって、高齢者食事サービス*やふれあい喫茶、子育てサロン*、地域・子ども食堂など居場所づくり、まちづくりワークショップ、地域フェスタなどのイベント、地域講演会、防災の取組みなど、さまざまな居場所づくりやつながりづくり、地域力を高めるための取組みが盛んに行われてきています。

このように、さまざまな取組が行われてきましたが、地域住民の生活スタイルや価値観の多様化、地域活動者の高齢化による担い手不足の深刻化、身寄りのない高齢者の増加、個人情報への壁などにより、これまでの地域活動のありかたの見直しが課題となっています。
一方で、孤立・孤独問題の広がりへの対策として、地域のつながりの再構築という観点から、地域活動の活性化が求められています。

以上のような、地域福祉をとりまく今日的状況や施策課題に対応するため、また「大阪市地域福祉基本計画」の改訂と、「住吉区将来ビジョン2028」をふまえ、住吉区における地域福祉の取組みをより推進するため、「住吉区地域福祉ビジョン」を改訂します。

(2) 住吉区地域福祉ビジョンの位置づけ

① 大阪市地域福祉基本計画との関係

「大阪市地域福祉基本計画」は、各区地域福祉計画等と一体で、社会福祉法第107条に規定された「市町村地域福祉計画」を形成するものであり、各区で地域の実情に応じた取組みを一層進めることができるよう、市域で共通した取組み等の基礎的な事項を内容としています。

② 「住吉区将来ビジョン2028」との関係

2024（令和6）年3月に策定された「住吉区将来ビジョン2028」は、住吉区内の基礎自治行政を総合的に推進していくうえで、地域としての区のめざすべき将来像やその実現に向けた施策展開の方向性などをとりまとめたものです。

今回改訂する「住吉区地域福祉ビジョン」は、「住吉区将来ビジョン2028」のめざす「多様性が尊重され、つながりの中で誰もが生きやすい社会の実現」並びに「未来を担う将来世代への支援」にかかる取組みの方向性を示すものとして策定します。

(3) 計画の期間

今回改訂する「住吉区地域福祉ビジョン」の計画期間は、2026（令和8）年度までの計画である次期「大阪市地域福祉基本計画」にあわせ、2024（令和6）年度から2026（令和8）年度までの3年間とします。

(2) 住吉区地域福祉ビジョンの位置づけ

① 大阪市地域福祉基本計画との関係

「大阪市地域福祉基本計画」は、各区地域福祉計画等と一体で、社会福祉法第107条に規定された「市町村地域福祉計画」を形成するものであり、各区で地域の実情に応じた取組みを一層進めることができるよう、市域で共通した取組み等の基礎的な事項を内容としています。

市と区が同じ方向を向かいつつ、住吉区らしい地域福祉を力強く推進していきます。

② 「住吉区将来ビジョン2028」との関係

2024（令和6）年3月に策定された「住吉区将来ビジョン2028」は、住吉区内の基礎自治行政を総合的に推進していくうえで、地域としての区のめざすべき将来像やその実現に向けた施策展開の方向性などをとりまとめたものです。

今回改訂する「住吉区地域福祉ビジョン」は、「住吉区将来ビジョン2028」のめざす「多様性が尊重され、つながりの中で誰もが生きやすい社会の実現」並びに「未来を担う将来世代への支援」にかかる取組みの方向性を示すものとして策定します。

(3) 計画の期間

今回改訂する「住吉区地域福祉ビジョン」の計画期間は、202~~9~~（令和~~11~~）年度までの計画である次期「大阪市地域福祉基本計画」にあわせ、202~~7~~（令和~~9~~）年度から202~~9~~（令和~~11~~）年度までの3年間とします。

基本理念

基本理念

ゆるやかなつながりで、このまちの希望を形に、
一人ひとりがかがやこう

人との「つながり」の中で人はしあわせを感じます。そして、元気づけられ健康にもなります。その一方で、「強いつながり」が苦手な人もいます。

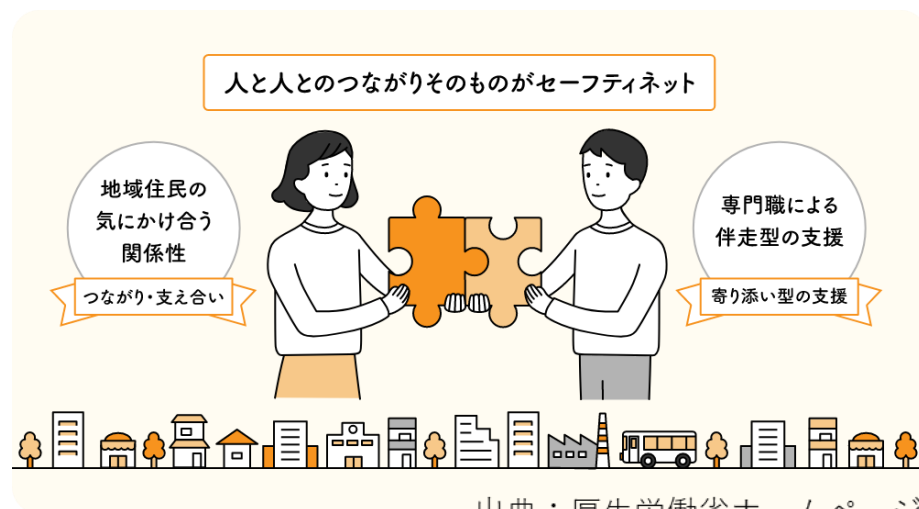
そのため、今求められるのは「ゆるやかなつながり」です。

この「ゆるやかなつながり」づくりは、普段の暮らしの中で、誰でもいつでも、自分の関心のあるところから始めればいいのです。その形も自由です。

少しずつ「ゆるやかなつながり」ができれば、安心感が生まれます。それが広がることで、生きづらさや孤立に苦しむ人々に気づいて、気にかけることもできるでしょう。そうした小さな支えあいが、災害時には大きな力になるのです。

「ゆるやかなつながり」はみんなで作り出すしあわせのセーフティネット*であり、このまちの希望を形にすることで、一人ひとりがかがやく場所になるのです。

私たちは、住吉区の強みを生かし、希望の未来へ願いをこめて、上記のとおり基本理念を掲げます。



変更なし

基本理念の考え方

- ① みんなの夢や知恵を形にして、一人ひとりがかがやけるまちづくり
(体験・経験から参加・参画へ)

このまちで働き暮らすさまざまな人々が集まって大きな夢を語りあい知恵を出しあいながら、その夢や知恵を形にするプロセスを積み重ねることで、一人ひとりがかがやけるまちづくりが実現できると考えます。

- ② ちがいを力に、自分の意見・自分で決めるを大切に
(人権尊重・自己決定権)

人は一人ひとりみんなちがいます。そのちがいこそが、新しいものを生み出す力になります。ですから、人はそのままかけがえのない存在です。そしてなにより大切なことは、誰もが自分の意見を言える、自分で決める権利があるということなのです。

- ③ 誰もひとりぼっちにしない(社会的包摂* (ソーシャルインクルージョン))

生きづらさや孤立に苦しむ人も、自分を気にかけてくれる人がいれば、ひとりぼっちではありません。身近な人が気かけあい、誰もひとりぼっちにしないことが、全ての人を包み込み、力づけるのです。

変更なし

基本目標

基本目標 1

ちがいとつながりを力にして、
一人ひとりがかかがやけるまちづくり

- ① 自分と地域を重ねて、しあわせを考えられる住吉区に
- ② 地域のしあわせをいろいろな人と話しあえる住吉区に
- ③ 助け助けられ、お互いさまを実感できる住吉区に
- ④ 地域のしあわせ「今」「これから」がみんなに見える住吉区に

基本目標 2

気になる人をまるごと、
支えあい気にかかけあうしくみづくり

- ① すべての人が自分の意見を言える、それが大切にされる住吉区に
- ② たくさんの「気になるなあ」が支援につながる住吉区に
- ③ 「木も見る、森も見る」まるごとを話しあい、支援が進む住吉区に
- ④ それぞれができることから大きな力を生みだせる住吉区に

変更なし

住吉区地域福祉ビジョン 構成イメージ図

基本理念

ゆるやかなつながりで、このまちの希望を形に、一人ひとりがかがやこう

みんなの夢や知恵を形にして、一人ひとりがかがやけるまちづくり
(体験・経験から参加・参画へ)

ちがいを力に、自分の意見・自分で決めるを大切に
(人権尊重・自己決定権)

誰もひとりぼっちにしない
(社会的包摂)
(ソーシャルインクルージョン)

基本目標1

ちがいとつながりを力にして、一人ひとりがかがやけるまちづくり

めざす姿

- ① 自分と地域を重ねて、しあわせを考えられる住吉区に
- ② 地域のしあわせをいろいろな人と話しあえる住吉区に
- ③ 助け助けられ、お互いさまを実感できる住吉区に
- ④ 地域のしあわせ「今」「これから」がみんなに見える住吉区に

基本目標2

気になる人をまるごと、支えあい気にかかけあうしくみづくり

めざす姿

- ① すべての人が自分の意見を言える、それが大切にされる住吉区に
- ② たくさんの「気になるなあ」が支援につながる住吉区に
- ③ 「木も見る、森も見る」まるごとを話しあい、支援が進む住吉区に
- ④ それぞれができることから、大きな力を生みだせる住吉区に

変更なし

① 自分と地域を重ねて、しあわせを考えられる住吉区に

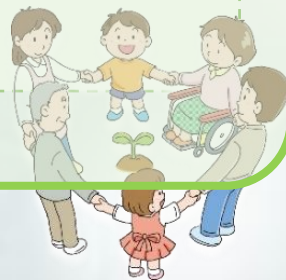
【現状と課題】

- 区内の社会福祉法人を中心に、高齢、障がい、妊娠中の女性などの住民や地域のボランティア、小中高校、大学などの協力を得て、さまざまな福祉学習・ボランティア学習・防災学習などの機会が創られています。
- プログラムの一部は平日夜間や土曜日開催のものもありますが、多くは平日日中での開催が多く、参加できる方が限定的になりがちであること、プログラムの内容に広がりが見えにくく、福祉への関心が高い方の参加にとどまりがちな面があります。

【これまで取り組めたこと】

- 学校、地域住民、企業関係者などを対象とした障がいの理解、まちのバリアフリー*などに関する学習機会の実施
- 認知症サポーター養成講座*の開催
- 地域・子ども食育の広がり
- 高校・大学生を対象とした社会福祉施設の見学ツアーの開催
(区社会福祉施設連絡会*)

アクションプランへ



【これからの目標】

- スポーツや文化活動などの地域行事の中に、福祉や防災的要素、多世代交流の要素等が自然と取り入れられ、楽しめるプログラムが広がっていくことをめざします。
- 平日夜間や土日など、現役世代も参加しやすい行事、スポット的な手伝いが歓迎される行事などが増え、コミュニティとの接点が広がることをめざします。
- ★自分のやりたいこと、できることから無理せず活動に参加してみよう。

① 自分と地域を重ねて、しあわせを考えられる住吉区に

【現状と課題】

- 区内の社会福祉法人を中心に、高齢、障がい、妊娠中の女性などの住民や地域のボランティア、小中高校、大学などの協力を得て、さまざまな福祉学習・ボランティア学習・防災学習などの機会が創られています。 **高齢①②③、障がい①**
- プログラムの一部は平日夜間や土曜日開催のものもありますが、多くは平日日中での開催が多く、参加できる方が限定的になりがちであること、プログラムの内容に広がりが見えにくく、福祉への関心が高い方の参加にとどまりがちな面があります。 **高齢①②③、障がい①**
- 若い世代に、地域がどのような取組みをしているのかや、その魅力を伝えることができていない現状があります。 **高齢①③**

【これからの目標】

- スポーツや文化活動などの地域行事の中に、福祉や防災的要素、多世代交流の要素等が自然と取り入れられ、楽しめるプログラムが広がっていくことをめざします。 **高齢①②、障がい①**
- 平日夜間や土日など、現役世代も参加しやすい行事、スポット的な手伝いが歓迎される行事などが増え、コミュニティとの接点が広がることをめざします。 **高齢③**
- 地域の魅力や取組みが、幅広い世代で共有されるような仕組みづくりをめざします。 **高齢①③**
- ★自分のやりたいこと、できることから無理せず活動に参加してみよう。 **高齢①②③**

② 地域のしあわせをいろいろな人と話しあえる住吉区に

【現状と課題】

- 地域における福祉的な現状や今後の地域に必要な取組みなどについて、多様な地域住民の参加を得て話しあう地域座談会を2018（平成30）年度以降、各地域で開催しています。~~2018（平成30）年度は、墨江・長居・苅田の3地域で、2019（平成31（令和元））年度には、東粉浜・南住吉・苅田南の3地域で地域座談会を開催しました。~~
- ~~以降も開催計画がありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、開催見合せが続き、2022（令和4）年度、山之内が開催を再開したほか、依羅では地域独自のまちづくりワークショップ*を継続開催しています。~~
- 継続的な開催や定着、参加者の広がり、「参加してみたい」「続けて参加したい」と思えるような運営方法の工夫・充実などが課題になっています。

【これまで取り組めたこと】

- 地域座談会を区内12地域のうち、7地域で開催
- 地域座談会での対話を通じて地域の文化祭、こども向け行事、地域の歴史を再発見するまち歩きなどの企画が実現
- 地域関係者、ボランティア、NPO*、学校教員、PTA、福祉関係機関、郵便局員等新たなつながりの創出

【これからの目標】

- 地域で暮らす人、働く人、学ぶ人など、立場のちがいを超えて誰でも身近な地域で気軽に集まって地元の話しができる茶話会的な場が生まれ、多様な人のつながりの機会、地域のこれからの話しにも花が咲くような機会が広がり、定着することをめざします。
- ★自分のまちをこんなまちにしたい、を身近な人々と話しあおう。



② 地域のしあわせをいろいろな人と話しあえる住吉区に

【現状と課題】

- 地域における福祉的な現状や今後の地域に必要な取組みなどについて、多様な地域住民の参加を得て話しあう地域座談会を2018（平成30）年度以降、各地域で開催しています。 **高齢①②③、障がい②**
- 継続的な開催や定着、参加者の広がり、「参加してみたい」「続けて参加したい」と思えるような運営方法の工夫・充実などが課題になっています。 **高齢①②③、障がい②**
- さまざまな生活様式に対応できるような、場所や時間の設定に課題があります。 **高齢①②③、障がい②**

【これからの目標】

- 地域で暮らす人、働く人、学ぶ人など、立場のちがいを超えて誰でも身近な地域で気軽に集まって地元の話しができる茶話会的な場が生まれ、多様な人のつながりの機会、地域のこれからの話しにも花が咲くような機会が広がり、定着することをめざします。 **高齢①②③、障がい②**
- ★自分のまちをこんなまちにしたい、を身近な人々と話しあおう。 **高齢①②③、障がい②**

③ 助け助けられ、お互いさまを実感できる住吉区に

【現状と課題】

- 住民相互の支えあい活動においては、「支える側」も「支えられる側」も同じ地域の住民です。住民の一人ひとりが「助け上手」「助けられ上手」となって、日常的な声かけや見守りを通じたつながり、お互いに支えあう関係づくりを進めています。
- 「大阪市における地域福祉にかかる実態調査」（2022（令和4）年度）では60%近<の人が地域福祉活動への関心がある一方、現在活動に参加している割合は約7%にとどまっています。
- ~~地域福祉活動の参加者を増やすことや活動内容の固定化による負担感を減らし、モ手バージョンを維持することが必要です。~~

【これまで取り組めたこと】

- 地域における“スマホ教室”で学んだ高齢者が教える側のボランティアとして活躍
- “アクションプラン”活動で、福祉施設の利用者が見守る側として参加
- 地域施設の花壇づくりに認知症*高齢者が参加など

【これからの目標】

- さまざまな“居場所”や“出番”が得られる機会、人が地域に増えることにより、「支える側」と「支えられる側」が柔軟に入れ替わったり、循環したりするような、人と人との新たなつながりが広がることをめざします。
- 日常からの支えあいで、災害時の助けあいや復興にも強い地域をめざします。
- ★ 頼り上手は頼られ上手、お互いさまの関係を増やしていこう。



③ 助け助けられ、お互いさまを実感できる住吉区に

【現状と課題】

- 住民相互の支えあい活動においては、「支える側」も「支えられる側」も同じ地域の住民です。住民の一人ひとりが「助け上手」「助けられ上手」となって、日常的な声かけや見守りを通じたつながり、お互いに支えあう関係づくりを進めています。 **高齢①②③、障がい①②③**
- 「大阪市における地域福祉にかかる実態調査」（2025（令和7）年度）では56%の人が地域福祉活動への関心がある一方、現在活動に参加している割合は約7%弱にとどまっております、参加しにくい状況があると考えられます。 **高齢①②③**
- バリアフリーや合理的配慮などにより、年齢や障がい、国籍など関係なく地域活動に参加できることが大切です。 **高齢①②③、障がい①②③**

【これからの目標】

- さまざまな“居場所”や“出番”が得られる機会、人が地域に増えることにより、「支える側」と「支えられる側」が柔軟に入れ替わったり、循環したりするような、人と人との新たなつながりが広がることをめざします。 **高齢①②③、障がい①②③**
- だれもが自分の役割を実感できるような、地域づくりをめざします。 **高齢①②③、障がい②**
- 日常からの支えあいで、災害時の助けあいや復興にも強い地域をめざします。 **高齢①②③、障がい②**
- ★頼り上手は頼られ上手、お互いさまの関係を増やしていこう。 **高齢①②③、障がい②**

④ 地域のしあわせ「今」「これから」がみんなに見える住吉区に

【現状と課題】

- 各地域では「児童の登下校時の見守り活動」「ふれあい喫茶*などのサロン活動*」など、地域福祉の向上に資する活動が実施されていますが、実態調査では地域福祉活動が実施されていることを「すべて知らない」との回答が約2割ありました（町会未加入の場合は約3割）。
- ~~同じ実態~~調査では、地域福祉活動に参加しなかった理由（複数回答）のうち、「活動があることを知らないから」「活動の内容がよくわからないから」「参加の仕方がわからないから」~~がいずれも約2割あり、~~前回調査より増加しています。

【これまで取り組めたこと】

- 地域の行事や取組みなどの地域活動、ボランティアに関する情報の発信
- 発信に際して、広報紙やホームページなどを活用



【これからの目標】

- 地域行事やボランティア活動などに関する情報発信について、ソーシャルメディア*を含めた多様な媒体が用いられ、興味や関心に応じて気軽に情報をキャッチできる環境となっていくことをめざします。
- 例えば前述の地域での茶話会等が開かれたような場合に、会に参加できなくても話題が共有できるような情報発信が行われている環境をめざします。
- ★自分のまちでどんな活動が行われているか探してみよう。

④ 地域のしあわせ「今」「これから」がみんなに見える住吉区に

【現状と課題】

- 各地域では「児童の登下校時の見守り活動」「ふれあい喫茶*などのサロン活動*」など、地域福祉の向上に資する活動が実施されていますが、同じ実態調査では地域福祉活動が実施されていることを「すべて知らない」との回答が約2割ありました（町会未加入の場合は約3割）。 **高齢①③**
- この調査では、地域福祉活動に参加しなかった理由（複数回答）のうち、「活動があることを知らないから」「参加の仕方がわからないから」が約2割、「活動の内容がよくわからないから」は約15%でした。前回調査よりいずれも減少しており、広報や周知活動に一定の効果があったのではないかと推察されます。 **高齢①③**

【これからの目標】

- 地域行事やボランティア活動などに関する情報発信について、ソーシャルメディア*を含めた多様な媒体が用いられ、興味や関心に応じて気軽に情報をキャッチできる環境となっていくことをめざします。 **高齢①③**
 - 例えば前述の地域での茶話会等が開かれたような場合に、会に参加できなくても話題が共有できるような情報発信が行われている環境をめざします。 **高齢①③**
- ★自分のまちでどんな活動が行われているか探してみよう。 **高齢①③**

① すべての人が自分の意見を言える、それが大切にされる住吉区に

【現状と課題】

- こどもや障がい者、高齢者に対する虐待の通告・通報件数は依然として多く、配偶者などによる暴力（DV*）被害の相談件数も増加するなど、個人の権利、利益が侵害され、安全安心な生活が脅かされています。
- 生活上の困難を抱えたり、さまざまな生きづらさを抱える人が、地域社会のなかで正しい理解や関わりがないままに差別や偏見にさらされてしまう状況があります。
- このような状況により、自分の意見を言ったり、自分で決定することが難しい人々がいます。

【これまで取り組めたこと】

- 児童虐待等の相談窓口等をホームページ・リーフレット等で周知
- 多様な人権問題に対する理解を深めるため、区民や関係機関、関係団体に対し研修・学習会等を開催
- **アクションプラン**へ認知症、発達障がい*、ひきこもり*、ヤングケアラー*等に関する理解を深めるため、区民や支援者、関係機関、区役所関係職員を対象に、講演会を開催、啓発用リーフレットの作成
- 成年後見制度*等、権利擁護*に関する理解を深めるため、講演会、研修の開催

【これからの目標】

- 地域で、家庭で、学校で、区役所等の相談窓口で、誰でも話したいこと、相談したいことをためらうことなく伝えることができるような環境をめざします。
- 話を聞く側、相談を受ける側が、誰もが自己表現や自己決定する権利を持っていることを理解できている環境をめざします。

★自分の思いも大切に、相手の思いも大切にしよう。



① すべての人が自分の意見を言える、それが大切にされる住吉区に

【現状と課題】

- こどもや障がい者、高齢者に対する虐待の通告・通報件数は依然として多く、配偶者などによる暴力（DV*）被害の相談件数も増加するなど、個人の権利、利益が侵害され、安全安心な生活が脅かされています。**高齢②④、障がい①②、こども①②③、複合④**
- 生活上の困難を抱えたり、さまざまな生きづらさを抱える人が、地域社会のなかで正しい理解や関わりがないままに差別や偏見にさらされてしまう状況があります。**高齢②④、障がい①②、複合④**
- このような状況により、自分の意見を言ったり、自分で決定することが難しい人々がいます。
- 情報へのアクセス格差やデジタル格差も課題となっています。**高齢②④、障がい②、複合④**

高齢④、複合④

【これからの目標】

- 地域で、家庭で、学校で、区役所等の相談窓口で、誰でも話したいこと、相談したいことをためらうことなく伝えることができるような環境をめざします。**高齢②、障がい①②、こども①②③、複合④**
- 話を聞く側、相談を受ける側が、誰もが自己表現や自己決定する権利を持っていることを理解できている環境をめざします。**高齢②、障がい①②**
- 必要な情報が必要な人へいきわたるような仕組みづくりをめざします。**高齢②④、障がい①②、複合④**
- ★自分の思いも大切に、相手の思いも大切にしよう。**高齢②、障がい①②**

② たくさんの「気になるなあ」が支援につながる住吉区に

【現状と課題】

- ヤングケアラー、虐待やDV被害者、外国にルーツを持つ人々、不登校・ひきこもりの人々など、生きづらさを抱えた人々が孤立し、支援の網の目から漏れる人々もいます。
- 核家族化が進み、子育てを周りに相談できない保護者等が増えており、こどもに関する相談のニーズは高い状況が続いています。
- 見守り活動の協力者の広がり、地域住民と専門職・行政間の連携等が課題となっています。

【これまで取り組めたこと】

- 地域見守り支援システム*を構築・運用
- 「子ども見守り隊*」の活動の広がり、継続
- **アクションプランへ**
- 地域包括支援センター*職員など福祉専門職による出張相談の実施
- はぐあっぷ*（妊娠・出産・子育て相談）の実施

【これからの目標】

- ちょっとした日常の変化に気づき、「もしかして何かあったのかも」と思える人が増えること、気づきがあったときに相談できる先を思いつける人が増えることをめざします。
- 身近な地域支援事務所*などで、「よろず相談会」のような場が開かれていること、いつでも相談できることを知っている人が増えることをめざします。
- ★気になる人ともつながって、気につけあえる関係になろう。



② たくさんの「気になるなあ」が支援につながる住吉区に

【現状と課題】

- ・ヤングケアラー、虐待やDV被害者、外国にルーツを持つ人々、不登校・ひきこもりの人々など、生きづらさを抱えた人々が孤立し、支援の網の目から漏れる人々もいます **高齢①、障がい①②、こども①②③**
- ・核家族化が進み、子育てを周りに相談できない保護者等が増えており、こどもに関する相談のニーズは高い状況が続いています。 **こども①②③**
- ・見守り活動の協力者の広がり、地域住民と専門職・行政間の連携等が課題となっています。 **高齢①②**
- ・個人情報保護の意識の高まりが、要援護者の情報が支援者に伝わりにくい状況を生み出しています。

高齢①、障がい③

【これからの目標】

- ・ちょっとした日常の変化に気づき、「もしかして何かあったのかも」と思える人が増えること、気づきがあったときに相談できる先を思いつける人が増えることをめざします。
- ・身近な地域支援事務所*などで、「よろず相談会」のような場が開かれていること、いつでも相談できることを知っている人が増えることをめざします。 **高齢①②、障がい①②**
- ・「個人情報を守る」ことと「個人情報の壁」について、地域住民が専門職や行政と一緒に考えることのできる機会づくりをめざします。 **高齢①②、障がい③**

★気になる人ともつながって、気につなぐ関係になろう。 **高齢①②、障がい②**

③ 「木も見る、森も見る」まるごとを話しあい、支援が進む住吉区に

【現状と課題】

- さまざまな社会的な背景の変化により、複合的な生活課題を抱えた人が増え、既存の制度や個別の支援だけでは解決できない場面が生じています。こうした複合的な課題を抱えた人を課題ごとに関係者や専門職が支援することになると、地域の中で暮らすという側面が見えにくくなったり、その人の全体像（まるごと）を把握したりすることが難しくなります。
- 木とは人、森とは地域、個別支援と地域支援の両輪が回ることで地域福祉を進めるうえで重要ですが、その両輪をつなぐ（重ねあわせる）軸となる取り組みが今後ますます重要です。

【これまで取り組めたこと】

- 地域における福祉活動に関する、地域住民、専門職、行政による会合の開催
- 地域包括支援センターの呼びかけによる「地域ケア会議」「活動報告会（地域交流会）」等の開催、地域関係者の参加
- （基本目標1-②に関連）区内各地域で開催される地域座談会にて、地域の福祉課題を共有

【これからの目標】

- 気になる人がいたときに、地域で見守ること、福祉の専門職が具体的な支援を行うことがうまくかみあうように、さまざまな立場の人が地域で情報を共有したり話しあったりできる機会が持てるようになる、そうした機会が増えることをめざします。
- ★心配ごととはいろいろな人と共有して、みんなで相談していこう。



③ 「木も見る、森も見る」まるごとを話しあい、支援が進む住吉区に

【現状と課題】

- さまざまな社会的な背景の変化により、複合的な生活課題を抱えた人が増え、既存の制度や個別の支援だけでは解決できない場面が生じています。こうした複合的な課題を抱えた人を課題ごとに関係者や専門職が支援することになると、地域の中で暮らすという側面が見えにくくなったり、その人の全体像（まるごと）を把握したりすることが難しくなります。 **複合①②③④**
- 木とは人、森とは地域、個別支援と地域支援の両輪が回ることで地域福祉を進めるうえで重要ですが、その両輪をつなぐ（重ねあわせる）軸となる取組みが今後ますます重要です。 **複合①②③④**

【これからの目標】

- 気になる人がいたときに、地域で見守ること、福祉の専門職が具体的な支援を行うことがうまくかみあうように、さまざまな立場の人が地域で情報を共有したり話しあったりできる機会が持てるようになる、そうした機会が増えることをめざします。 **複合①②③④**
- ★心配ごとはいろんな人と共有して、みんなで相談していこう。 **複合①②③④**

④ それぞれができることから、大きな力を生みだせる住吉区に

【現状と課題】

- 複合的な生活課題を抱えている人々や制度のはざまに陥っている人々を支えるため、分野を超え、その人が暮らす環境も含めて相談・支援を行う体制の充実が求められているほか、地域・専門職・行政等が連携し協働することが必要です。
- 地域・専門職・行政等が協働するうえで、それぞれの機能と役割の相違などから、円滑な連携が行われないことがあります。

【これまで取り組めたこと】

- 複合的な課題、支援困難ケースについて、関係機関が集まり、具体的な支援や連携について話しあう「つながる場」の開催
- 学習会等を通じた、地域住民や専門職、行政等の連携によって支援が進んだ事例の共有
- 学校、地域、警察、行政、区社会福祉協議会*が参加し、子ども見守り隊活動の充実に向けた校區別意見交換会の継続的な実施

【これからの目標】

- 単独で関わる、支援することが難しい状況の地域住民を受け止め、支えるために、地域住民同士、地域住民と福祉の専門職や行政、専門職同士などがうまくつながり、どこかに誰かに負担が集中するようなことがないように、それぞれの特性を活かした息の長い支援も想定した役割分担ができるようになることをめざします。
- ★ 支援者同士も、顔合わせから力をあわせる関係になろう。



④ それぞれができることから、大きな力を生みだせる住吉区に

【現状と課題】

- 複合的な生活課題を抱えている人々や制度のはざまに陥っている人々を支えるため、分野を超え、その人が暮らす環境も含めて相談・支援を行う体制の充実が求められているほか、地域・専門職・行政等が連携し協働することが必要です。 **複合①②③④**
- 地域・専門職・行政等が協働するうえで、それぞれの機能と役割の相違などから、円滑な連携が行われないことがあります。 **複合①②③④**
- 福祉課題の複雑化により、支援が長期間に及ぶことが多く、継続した支援には支援者側のケアも課題です。 **複合①②③④**

【これからの目標】

- 単独で関わる、支援することが難しい状況の地域住民を受け止め、支えるために、地域住民同士、地域住民と福祉の専門職や行政、専門職同士などがうまくつながり、どこかに誰かに負担が集中するようなことがないように、それぞれの特性を活かした息の長い支援も想定した役割分担ができるようになることをめざします。 **複合①②③④**
- ★支援者同士も、顔合わせから力をあわせる関係になろう。 **複合①②③④**

つながり・みまもり・支えあいシステム

「つながり・みまもり・支えあいシステム」

